

大分市総合計画検討委員会 第4回 都市基盤部会 議事録

◆ 日 時 平成27年10月27日(火) 14:00～16:00

◆ 場 所 大分市役所第二庁舎 6階 選管委員室

◆ 出席者

【委員】

安藤 万葉、板倉 永紀、小林 宰、武田 浩、利光 正臣、久田 成昭、
吉村 充功 の各委員（計7名）

【事務局】

企画課 専門員 廣田 暁則、同専門員 坪井 敬行、同主査 秦 英司
（計3名）

【プロジェクトチーム】

情報政策課 主事 菊池 正晃、都市計画課 専門員 板井 和昭、
都市計画課 主任 藤澤 隆介、都市交通対策課 主査 小畑 淳一、
経営管理課 主査 柴田 英企（計5名）

【オブザーバー】

都市交通対策課、情報政策課、住宅課

【傍聴者】

なし

◆ 次 第

1. 開会

2. 議事

各節の検討について

第1章 快適な都市構造の形成と機能の充実

第2節 交通体系の確立

第3節 地域情報化の推進

第2章 安定した生活基盤の形成

第3節 安全で快適な住宅の整備

3. その他

<第4回 都市基盤部会>

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>皆さんこんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>ただ今から大分市総合計画検討委員会第4回都市基盤部会を開催します。よろしく願いいたします。</p> <p>本日は、西委員と脇委員から、都合によりご欠席とのご連絡をいただいています。また前回同様、私ども事務局と総合計画を作成するプロジェクトチーム以外に各節の担当課の職員が臨席しており、ご質問等にお答えさせていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>では、まずお手元に配付しています資料の確認をさせていただきます。まず次第です。次第の裏に今日の座席表を付けております。そして、都市基盤部会の日程表が3枚目になっています。それと、順番は前後するかもしれませんが、第3回目の都市基盤部会でいただいた意見をまとめたものを添付しています。これについては、今日特に議論はせずに、次回の第5回目の冒頭でご説明し、ご意見をいただきたいと思っています。その次に、都市基盤の形成の素案の正誤表を付けています。表の一番下の112ページ、安全で快適な住宅の整備に関する目標値の数値を訂正しています。よろしく願いいたします。</p> <p>それと、今日ご欠席の脇委員は大分県バス協会の専務理事で交通に詳しく、本来であればご出席をと思いましたが、日程が合わなかったため、事前にご意見をいただいたものをお配りしています。説明の後に色々なご意見をいただけると思いますので、関連するようときにはご紹介をしながらご説明したいと思えます。</p> <p>それと、今回は第4回目ですが、11月11日に第5回目の部会を予定しています。その開催案内もお手元にお配りしていますので、日程の確認と調整をお願いします。</p> |
| 委員 | <p>10日が11日になるんですね。</p> |
| 事務局 | <p>そうです。10日を11日に変更いたしましたので、よろしく願いいたします。資料の不足等はありませんでしょうか。今日は約2時間、16時までを予定しています。</p> <p>それでは早速議事に入らせていただきますが、検討委員会設置要綱の第7条第4項により、議事は部会長が進めることになっていますので、吉村部会長、よろしく願いいたします。</p> |
| 部会長 | <p>皆さん改めましてこんにちは。今回は第4回目ということで、各節の検討については、今日一通り全ての節の検討が終わる予定になっていますので、今日も活発なご議論をお願いいたします。</p> <p>早速次第に従いまして議事の進行を行います。議事の1番目、各節の検討については本日も各節ごとに対応していきますので、まず第1章第2節について事務局より説明をお願いいたします。</p> |
| P T | <p>それでは第1章第2節の交通体系の確立について説明いたします。素案の9</p> |

9ページをご覧ください。

まず素案の説明に入る前に、交通の施策に関する基本的な考え方をご説明します。交通の施策につきましては、人口減少社会を迎えるに当たり、まちの機能をコンパクトに集約した利便性の高いまちづくりと連携した公共交通のネットワークの確立に取り組むことを基本的な考え方としております。

それでは初めに、動向と課題についてご説明します。昨今の少子高齢化の進行や、高齢により車を運転できない人の増加、地球温暖化等の環境問題の深刻化などから、車よりも人や環境に優しい乗り物として、公共交通の役割が見直されていますが、本市では、日頃の交通手段として車利用が広く定着する一方、公共交通の利用者は年々減少しており、路線廃止や便数の減少といったサービスの縮小が行われ、車を使える人と使えない人との間に、移動の自由の格差が生じているということを課題として上げています。

今後は、人口減少社会を迎えるに当たり、まちの機能をコンパクトに集約した利便性の高いまちづくりが必要とされており、こうした歩いて暮らせるまちづくりを実現するためには、それを支える誰もが快適に移動できる公共交通のネットワークの確立が求められています。

また、交通渋滞の緩和や、公共交通のネットワークを補完する役割も担う自転車に関しては、安全で利用しやすい環境づくりが求められております。

さらに、国際化の進展や広域交流の拡大に対応するため、広域的な移動を支える交通ネットワークの強化が求められております。

素案の下のほうに掲載資料、グラフ等を載せていますが、先ほど追加でお配りしました資料のこちらのグラフのほうを載せる予定にしています。JR利用実績の推移と、次のページのバスの利用実績の推移ということで、この二つのグラフを載せる予定です。

続きまして、基本方針についてご説明します。素案の99ページの中段をご覧ください。先ほどご説明しました動向と課題を踏まえ、誰もが快適に移動できる交通のネットワークの確立を図るため、市民、交通事業者、行政の3者が連携を図り、私的交通や公共交通など、それぞれの交通機関が持つ輸送能力や速達性などの機能や特性の違いを踏まえ、各交通機関の最も効率的な組み合わせを再構築し、過度に自家用車に依存しない持続可能な交通体系の確立を図ることを基本方針としています。

次に主な取組についてご説明します。素案の99ページ下段から100ページをご覧ください。基本方針を踏まえ、五つの取組を掲げています。

まず、公共交通ネットワークの構築の取組については、バス、鉄道、コミュニティバスの三つに分けて記載しています。

一つ目のバスについては、交通事業者等と連携し、バスの運行の効率化と利用者に、よりわかりやすく利用しやすいバス路線網への再構築を目指すとしており、具体的には、長くて複雑なバス路線を整理し、途中に乗り替え拠点を設け、幹線バスと支線バスに分けることで、幹線バスの効率化を図ると同時に、支線バスの運行本数を増やすことなどを考えています。

二つ目の鉄道については、交通事業者等と連携し、各鉄道駅における駅前広場、駐車場、駐輪場などの整備をはじめ、新駅の設置、鉄道の高速度化、日豊本線の複線化などを促進し、バスやタクシーなど交通機関との乗り替え機能など

の強化を目指します。

三つ目の交通不便地域におけるコミュニティバスについては、地域が主体的に運行にかかわる持続可能な公共交通を目指し、地域の関係者との協働により、病院や買い物など、日常生活に必要な生活交通路線の確保を図ります。

次に、公共交通の利便性の向上と利用促進の取組については、公共交通の利便性の向上と公共交通の利用促進についての二つを記載しています。

一つ目の公共交通の利便性の向上については、高齢者や障害のある人等の公共交通機関を利用した移動の利便性及び安全性の向上を図るため、市民、交通事業者、行政が一体となり、利用環境のバリアフリー化を促進するとし、具体的には、ノンステップバスの導入や、バス停における待ち合い環境の整備を考えています。

なお、第2回目の部会の際に、「公共交通については、高齢者や障害者を中心にした書き方になっていますが、子育て世帯や子供だけでも乗れる利便性などを意識してほしい。」とのご意見をいただきましたので、具体的に子育て世帯等の記載まで行くかについては、現在検討しています。

二つ目の公共交通の利用促進については、自家用車から公共交通への自発的な転換を促す取組を推進するとしており、具体的には、公共交通の大切さを理解してもらうバスの教室などを実施しているところです。

次に、自転車利用の促進の取組については、自転車利用の環境づくりと自転車への転換及び他の交通機関との連携の二つを記載しています。

一つ目の環境づくりについては、安全・快適に利用できる環境づくりに努めるとしており、具体的には、自転車走行空間や駐輪場の整備を行うことを考えています。

二つ目の自転車への転換及び他の交通機関との連携については、自転車利用を促進するための仕組みづくりを進めるとしており、具体的には、サイクリングイベントの開催や、鉄道駅、バス停留所付近の駐輪場の整備を行うことにより、自転車から他の交通機関に乗り継ぐサイクルアンドライド等を考えています。

次に広域交通ネットワークの強化の取組については、有機的な広域交通体系の確立と東九州新幹線と第二国土軸構想の検討の三つを記載しています。

一つ目の広域交通体系の確立については、地域間の連携や交流の促進、物流の機能向上等を図るため、港湾、空港の機能充実や、これらを接続する道路の整備を促進し、各交通機関が密接に関連した広域交通体系の確立を関係機関等と連携して進めるとしてしています。

二つ目と三つ目の東九州新幹線と第二国土軸構想の検討については、国や九州各県、関係機関などと連携し、実現に向けて検討を進めるとしてしています。

次に、交通渋滞の解消・緩和の取組については、国・県等との関係機関と連携し、公共交通への利用転換並びにノーマイカーデーや時差出勤、パークアンドライドなどの交通の円滑化を図る様々な取組を促進し、道路における渋滞等の交通問題の解消・緩和に努めるとしてしています。

続きまして、目標設定についてご説明します。素案の101ページをご覧ください。目標設定としては、自転車と公共交通の二つの指標を掲げています。自転車に関する指標としては、主な取組の自転車利用の促進に対応する指標と

して、「市が設置する中心市街地における駐輪場の収容台数」を掲げています。当指標を設定した理由は、放置自転車を適正に処理するため、駐輪場の収容台数を増やすことが重要であることから、当指標を設定しています。

また、主な取組の公共交通の利便性の向上と利用促進に対応する指標として、「人口1人当たりの年間公共交通（鉄道・バス）の利用回数」を掲げています。当指標を設定した理由は、持続可能な交通体系の確立を図るため、市民一人一人の公共交通の利用回数を増やすことが重要であることから、当指標を設定しています。

なお、当指標は公共交通の利用促進を図る事業を進める上での努力目標であり、平成31年度の目標値については、昨今の鉄道利用者数の増加、バス利用者数の減少の推移から、今後も鉄道の利用回数は増え続けるものと仮定し、バスについては更なる利用促進を図る取組を行った結果として、現在の利用回数を維持できた場合の値として目標値を設定しています。

以上が交通体系の確立の説明でございます。

部会長

ありがとうございました。それでは、皆様の質問、議論等に移りますので、何かありましたらお願いいたします。

委員

交通体系の話が書いてありますが、新旧を見ると、現行計画と比べてかなり公共交通ネットワークに論点を置いている様にみえます。例えば、書き方でも以前は交通体系ネットワークの強化で、「道路・港湾・空港」となっていたが、「港湾・空港の機能を充実し、これに接続する道路を整備する」、指標についても、「交通渋滞解消・緩和」から、「年間公共交通の利用回数」に変わっています。ここで公共交通ネットワークのことを主として述べるのであれば、題を「公共交通体系の確立」など、公共交通に絞ったほうがいいのではないかと思います。

一方で、この原案の題名を使うのであれば、もう少し道路ネットワークや、公共交通ではない交通体系の話も書き足さないと、題名とバランスが悪いです。おそらく、最初のところに前回の計画で入っていなかった少子高齢化が先頭に来ているので、公共交通をより使っていきましょうということをごをここで言いたいと思いますが、そうすると、題に対して書いてある内容に偏りがあることになってしまいますので、必ずしも表現を変えてほしいわけではありませんが、公共交通なら題名のほうを公共交通にしたほうがいいし、交通体系全般を言うなら、もう少し公共交通ではないことを書き込んだほうがいいと思いますので、そのあたりをご意見いただきたいと思います。

P T

基本方針の部分に書いていますが、私的交通、いわゆる車や自転車と公共交通それぞれあり、その組み合わせやそれぞれの得意分野である輸送量や速達性など色々な機能・特性がありますので、それを踏まえたネットワークをつくるということ、公共交通だけではなく、車や自転車についても、一緒になってネットワークをつくっていくことを考えていますので、公共交通だけのタイトルでは少し意味合いが違っていると思います。ただ、確かにどちらかという文章が公共交通寄りにはなっていると思います。

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>そうですね。自転車や道路、豊予海峡なども含め、全く連携がないということでもないと思いますが、どちらかという、公共交通の話を拘束するものとして間に入っているように感じられますので、もし本当の趣旨が交通ネットワーク全体であれば、少し中身を書き込む必要がある気がします。むしろ今の時代に合わせて、特に大分市では公共交通のところを節の題にも入れて、しっかりと変えていくのであれば、方法としてはおかしくないと思いますが。今はどちらか、こうしていきたいという方針がありますか。</p> |
| 事務局 | <p>どちらというわけではありませんが、公共交通も維持していきながら、道路体系などの整備も必要と考えています。確かに言われるとおり、公共交通といった表題ではないながらも文章的には公共交通のことが主になっていますので、どこをどう変えるというわけではありませんが、そういったご意見をいただき、もう少し公共交通として充実させられるところや、交通のネットワークとして充実させられるところは、検討したいと思います。貴重なご意見として承ります。</p> |
| 委員 | <p>関連でいいですか。前回の部会で言ったように、道路のうち県道や三桁国道が一番悪いです。公共交通の幹線になっており、朝晩片側1車線だとバス停にとまると渋滞します。それにより離合もできない県道もあるわけです。バス道の整備で前に言いましたが、やはりそういったことを書かないと現実的ではない気がします。交通体系の理屈がわかって、実際そういう機能が大分市内は特に遅れています。特に植田の方は民間開発で市道などは良くなっていますが、それに伴った県道、三桁国道の整備が遅れています。やはりそのあたりを書かないと、絵に描いた餅で、現実的に不可能です。現に生活の中でも朝は便が多いので、バスが来たら待たないといけない。そのあたりをどこかで強調しないといけない。先ほど委員さんが言われたのはそういった意味だと思います。</p> |
| 事務局 | <p>道路整備と公共交通は、まちづくりという意味では両輪であると思います。総合計画の素案の中では都市基盤の形成と交通の部分が分かれています。どちらでどう書くのかを踏まえると、基本的に道路形態の中で三桁国道は都市計画道路になりますので、都市基盤の形成が主なところになると思います。以前も委員さんからそういったご意見もいただきましたので、まとめて書くというよりも、それぞれに必要な表記をするように再度確認し、ご意見を反映させられるところは反映させていきます。</p> <p>それと、先ほど申しましたが、道路体系と公共交通は相互に密接に関係いたしますので、提言書で表現できるよう検討したいと思います。</p> |
| 委員 | <p>私も南大分に1回住んだことがありますが、駅に近いというのは便利がいいです。ところが南大分駅に行こうとすると、朝渋滞して時間に間に合わないことがあります。そういった意味では、やはり駅を中心とした拠点整備や、パークアンドライドを進めるなど方針を持たなければ、漠然とあれもこれも一気にはできないと思います。</p> <p>それは、ほとんど朝に限定されますが、やはり電車は時間にきっちり来ます</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>ので、そこへパークアンドライドの様に賀来や南大分に寄れるような施策などを書き込まなければ、やはりどこかに集中しないと全部整備はできないです。県道の整備にしても幹線全部をとというわけにはいかないですから。都市基盤と交通体系の両面を合わせてと言われると漠然とし過ぎて、どういう方向に持っていこうとしているのかが今一步わからないです。そのあたりも強調するような考え方も必要があると思います。</p> |
| 事務局 | <p>そうですね。なかなか打ち出す方針は難しいかと思います。他都市の例を見ると、富山市はLRTを使っての公共交通の軸をつくり、それを串に団子のような形でまちをつくる、そういった具体的な方針を出している市も確かにあります。</p> |
| 委員 | <p>公共交通や幹線などを沿線的に整備し、そのあと足りない地域をコミュニティバスで、そんな方針を打ち出さないと、コミュニティバスを含めて一緒にということはできないと思います。幹線をきっちりと整備した中で、不足を補うためのコミュニティバスという方針にしないと、両方一緒にはできない。金もかかるし。やはり有効に扱うためにはそういった一つの方針が今一步漠然としています。</p> |
| P T | <p>実際のところは来年以降、地域公共交通の形成計画という、国の交通の活性化法の下での計画がありまして、それをつくる方向で検討しています。その中で委員さんがおっしゃられたような仕組み、どういう形で幹線、支線を整備するかを考えて計画をつくる必要があると考えています。</p> |
| 事務局 | <p>パークアンドライドは一つの方策でありますので、その方策とどう連携していきながら、公共交通を確立していくのか、道路網と連携していくのが大事です。そのあたりも今後の市の一つの課題と捉え、提言書への反映について検討したいと思います。</p> |
| 委員 | <p>これからは、コミュニティバスは絶対必要になってきます。そのためにも、ただコミュニティバスを便利よく使うということではなく、きっちとした方針がある中で補足していくといった形の位置付けは絶対必要になってくると思います。ぜひそういったことを強調して行ってください。</p> |
| 委員 | <p>今の話の続きですが、先ほどバスと鉄道とコミュニティバスという三つがありました、その三つの連携という文章が一つほしいと思います。ネットワークをつくるためには、先ほどおっしゃったようにそれぞれの役割があるので、その役割をしっかりと分析し、決めたくえで連携を図っていくというような一つの文章をつくっていただくと、ネットワークというものが出てくると思います。</p> <p>それから、細かい話ですが、鉄道のところで具体的過ぎる日豊本線の複線化、これは複線化くらいにとどめておいていただければと。なかなかそこまで至りませんので。</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | ありがとうございます。表記の仕方は検討いたします。 |
| 委員 | もう1点、私的な意見ですが、東九州新幹線より豊予海峡のほうを上を持ってほしいと思っています。これは私の私見ですが。 |
| 委員 | 市長がお話しされていた中では、東九州新幹線が上だと。先にありました。 |
| 委員 | 先にありましたか。 |
| 委員 | はい。私もそう思っていました。市長がそのように話をされていたので、順番的にそうなのかと。本当はどちらかわかりませんが。 |
| 委員 | 東九州新幹線のメリットより豊予海峡のほうがメリットは大きいかと。 |
| 事務局 | そのあたりのメリットは今後探っていくことにはなるとは思いますが、確かに細かい話ではありますが、文章でどちらを先に書くかというのは市のスタンスの一つが明らかになるところです。市民の皆様にご理解いただけるかはわかりませんが、そういった意識を持ちながら、この文章の作成というのは必要ですので、文章の構成等は市の方針を確認しながらで。 |
| 委員 | 市長があれだけ反対されながら打ち出してきたので、やはり強調するべきだと思います。夢なのはわかりますが。 |
| 事務局 | どちらが上位かは確認したいと思います。それとネットワークの文章については、おっしゃられるとおりネットワークを形成する上での大事なところですので、文章にできないか、盛り込めるように検討いたします。 |
| P T | 基本方針の部分に公共交通や車、自転車などを含めた形で最適な組み合わせということで書いていますが、主な取組の部分に具体的には書いていませんので、書けるかどうかを検討いたします。 |
| 部会長 | そのほかはいかがでしょうか。 |
| 委員 | もう一ついいですか。バリアフリー化の話がございまして、先ほどの説明の中ではどちらかというよりもあまり鉄道駅のバリアフリー化の話が具体的には書かれておらず、「利用環境の」と書いてありますが、このあたりはあまり具体的に書かずに、あえてさらっと利用環境ということで、色々なところでのバリアフリー化を進めていくといった意味でよろしいですか。あえてあまり具体的には言わないということで。ぜひバリアフリー化は進めていきたいし、いただきたいと思っています。 |
| 事務局 | そうですね。広く書いて、読める様にしております。 |

| | |
|--------|--|
| 副部会長 | この点ですが、最近のバスの成功事例でお客さんを増やしているという十勝バスの話を聞いていても、おそらく通常の人がバリアフリーで持つイメージは段差が無いなどですが、乗り方がわからない人に丁寧になどの、表示等も含めたところのバリアフリーということで多分よろしいですね。お考えの利用環境と言われているのは、実はそこまで広くしているということでもよろしいですね。 |
| P T | そうです。広い範囲で。 |
| 副部会長 | 後ろから乗って前から降りることや、料金をいつ払うなども含めて、バス停の名前だとわかりませんが、表示の仕方を変えることで、例えば植田のほうにトキハから行こうと思っても、どれに乗っていいのかわからないといったところを改善するなど、そういったものも含むという理解でよろしいですか。 |
| 事務局 | はい、そうです。同様の意見をいただいています、やはりバスの乗り口がわかりづらいというところを言われています。そういった意味でのバリアフリー化ができるように進めていくべきだとは思いますが、ここは広範な書き方になっています。市街地の形成の章には、ユニバーサルデザインということで記載もしていますので、そういった都市空間の整備や取組が必要だと思います。特に公共交通は人が集中しますので、そういったバリアフリー化の促進という意味で、取組の文章の中から読み取ればと考えています。 |
| 副部会長 | <p>あと1点ですが、そういった大きな流れの中でバスは昭和40年代から大きく利用が減り、大分は車の利用が原則型で、健康であれば車ということは十分承知していますが、不便だから使いなさいということは中々筋が通らないと思うので、やはりこの利便性の向上というところに該当していると思います。何か利用者側の意識が変わるような成功事例的な、今の「きゃんばす」もそうですが、その次の様な形で小さいながら成功させていく中で、少しイメージを変えていくということは大事だと思います。そのあたり先ほども、ある程度順序立てて、予算の関係もあるからという話もありましたが、少し小さな成功事例の様なもので意識を変えていくといったところもあっていいのかなと。ご検討いただければと思います。</p> <p>ちなみに今、「きゃんばす」は成功事例というイメージでよろしいですね。今日も市長がそうおっしゃっていましたので。バス会社と話していても、6月、7月より良くなったという話を伺っています。</p> |
| オブザーバー | そうですね。確かに8月の夏休みまでは、両美術館のイベントとマッチして、良い状態がございました。色々イベントがありましたので。 |
| 副部会長 | 水戸岡さんなどですよ。 |
| オブザーバー | そうです。進撃の巨人展と。今下がっておりますので、まだまだ検証していないといけないかと。 |

| | |
|------|---|
| 副部会長 | なるほど、わかりました。 |
| 委員 | <p>もう一ついいですか。先ほどのバリアフリーの話ですが、いわゆる乗り方がわからないことや、乗りづらいということで、「SUGOCA」というものを導入しましたし、大分バスさんも「nimoca」というICカードを導入されていますが、なかなかカードの使用率が実は上がっていません。これを逆に1枚持っていていただくことで簡単に乗れる、といったことでもう少し得をしていただくと非常に皆さん便利になるのではないかと思います。</p> <p>実は、それで利益が上がっているわけではなく、逆に多額の経費をかけて入れていますので、それをうまく使っていただいたほうがありがたいと思います。</p> |
| 委員 | 東京では切符を買っていると恥ずかしいですからね。時間もかかるし。 |
| 委員 | これは1回試してみるとおそらくわかると思いますが、なかなか皆さんとつきづらいというのがあるようです。JRでも大分駅の使用率は3割ぐらいです。福岡で大体5割から6割ぐらいですね。なかなか地方だと、ほとんど3割ぐらいしか使っていませんね。 |
| 事務局 | 使える範囲がまだ大分のほうは狭いのか、そのあたりも。 |
| 委員 | ですけれども、電車もバスも両方使えるので、何も気にせずに乗れることが一番で、そういう意味でもバリアフリーだと思います。書けるかどうかは別としても、そういったところに少しお力添えをいただけるといいと思います。 |
| 事務局 | やはりバリアフリーというと、一般の人は確かに段差の解消などを直感的に思われると思います。やはり委員さんが言われるように、道先の案内や利用方法など、そういったバリアフリーというものは積極的に進めて、それによって公共交通の活性化につながれば良いことだと思いますので、貴重なご意見としていただきます。 |
| 委員 | 100ページの広域交通ネットワークの強化ですが、「地域間の連携や交流の促進」から始まることで、「港湾・空港の機能充実やこれらを接続する道路の整備を」となっています。そういう趣旨で書いているのではないのかもしれませんが、このまま読むと、「港湾・空港を接続する道路の整備を促進し」となりますので、今我々が行っている国道10号の事業にしても、県が行っている庄の原佐野線にしても、そういった港湾・空港の接続にはなっていないと思います。なので、もしこのまま概ね残すのであれば、「その機能充実や」の後の「これらを接続する」を落とし、「港湾・空港の機能充実や道路の整備を促進し」に直していただいたほうが。少し実態と合っていないので、修正をお願いします。 |
| 事務局 | わかりました。かなり広い意味で、大分インターから空港が直結をしているということであり、そこに接続する庄の原佐野線も同じイメージで書いていましたので、修正の検討をさせていただきます。ありがとうございます。 |

| | |
|--------|--|
| 部会長 | そのほかいかがでしょうか。 |
| 委員 | 例えば今から観光などを進めていかなければならない中で、観光に来た人が自転車のリースなどを利用してまちを動き回るなど、そのあたりに向けてのこともあっていい気がします。ヨーロッパに行くとコインで借りて、行ったところで置けるようなものが結構あります。受け入れ的な形の中で、そういったものを検討してください。いわゆる観光客などに向けて。 |
| 事務局 | 今、レンタサイクルを大分駅のほうで貸し出しているところですが、中々観光客までの結び付きはどうでしょう。 |
| オブザーバー | 都市交通対策課ですが、レンタサイクルは今、駅の高架下のほうに100台ほど用意しており、実際利用率は良く、半分が常時出ていますが、更新することが中々まだうまくいっていません。委員さんがおっしゃられるように、まちのほうには乗り捨ての可能なレンタサイクルがあり、こちらとしても取組をどうするかを考えています。実は「自転車利用の促進」の中の二つ目で位置付けはあります。 |
| 委員 | もう少しわかりやすく強調してもいいのでは。 |
| 事務局 | 観光面というより、今後ラグビーワールドカップも控えていますので、そういった面で外国人の観光客等にも目を向けたときに、どう考えていくのが良いかは、一つの検討事項とは思いますが、ここの記載についてはどの程度意識したものにできるか検討いたします。 |
| 副部会長 | 今のことに関連ですが、大分の場合、企業立地が産業面で結構進んでいて、私どもの会社も出張者が多く来ています。ですから出張者は基本的に市内まで空港から公共交通を使い、場合によっては鶴崎など、JRの便の良いところであれば公共交通で移動しています。全体を見ると大分市民の区分で高齢者や障害者、私が前回言った子育て世代なども関係あるかもしれませんが、少し交流人口という意味で、先ほど委員さんが言われた観光のお話と、出張の方々の利用の様なものも少し読み取れるような形になるといいかと思えます。 |
| 事務局 | 確かにそうですね。来街者を意識した記述が薄いですね。色々な企業の出張で来られた方や観光で来られた方は広く捉えて来街者という形になりますので、そういった視点で、どの部分というよりも全体的に捉えられるような記載を考えます。 |
| 部会長 | 今の部分と合わせてですが、広域の交通ネットワークのところ、港湾や空港の機能が出てきますが、船舶、フェリーなどの利用促進等も、今西大分港や佐賀関港等があるので、書いておかないと先ほどの観光などもそうで、かなり活発になっていますし、本当に豊予海峡を実現できればいいでしょうが、そこに行くまでにはこういったものが廃止されては非常に困るはずなので、そ |

| | |
|------|--|
| | <p>ったところも意識した記述ということは必要と感じていますので、よろしくお願い致します。</p> |
| 委員 | <p>話は飛びますが、伊方原発が承認されて国が責任を持つというので、やはりトンネル越えでしっかりしないといけない。</p> |
| 部会長 | <p>ここの第二国土軸は太平洋新国土軸というのが多分正しいですよ。あまり第二という言い方は。</p> |
| 委員 | <p>昔の言い方ですね、第二というのは。</p> |
| 事務局 | <p>そうですね。</p> |
| 委員 | <p>新太平洋国土軸だね。</p> |
| 事務局 | <p>そうですね。ありがとうございます。ここは修正をしておきます。</p> |
| 部会長 | <p>ほかいかがでしょう。バスの関係などで色々取り組をしたご経験があるようですので、ご紹介を。</p> |
| 委員 | <p>そうですね。話が戻りますが、先ほど言われていた利用環境のバリアフリーのところで、見方がわからないといったことが若い人の意見で、今本当に乗り方がわからないという人が多いです。そのときにつくったバスマップでは、乗る時から降りる時までの手順を載せ、若い人は携帯を持っていますので、時刻表などが読み取れるQRコードを載せたバス路線もつくり、よりわかりやすい感じにしています。あと、大分大学を基準でつくりましたので、大分大学生がよく行く場所で、電車が通っていないパークプレイスの方や、わさだタウンの方などの路線を書いて、値段も書くなど若い人向けですがつくってみました。</p> |
| 副部会長 | <p>伺いたいのは、アルバイトなどをして少し通勤時間帯を超えて8時、9時くらいに、仮に公共交通を使ってアルバイト先や自宅に帰るといったことは大きな施設ができると必ず皆さん心配されていますが、時間帯の話について集まったメンバーで何か利便性について感じていることはありましたか。どうしても東京や福岡のバスだと10時であればまだありますが、急に本数が減ることやアルバイトの時間や塾から帰る時間などのあたりで何か意見があれば教えてください。</p> |
| 委員 | <p>それも出ました。夜、もう少し出してほしいという。意見では深夜も出ましたが、やはり大学生なので夜中にカラオケなどでバイトをしている人も結構いて、そこまでするのどうなのかなと思いましたが、夜遅くまでという意見は結構出ていました。バスも電車も、もっとあればいいという。</p> |
| 事務局 | <p>金曜日、土曜日に深夜バスが走っていて、多分夜お酒を飲んで帰られる方な</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>ので、年配の人向けなのかもしれませんが、そういった若者向けにでもできれば利用の促進にもつながるかもしれません。</p> |
| 委員 | <p>豊肥線の11時の最後の便は多いです。私も敷戸まで乗りますが、2両編成に目いっぱい乗っています。座るところも無い。</p> |
| 事務局 | <p>そうですか。</p> |
| 委員 | <p>ありがとうございます。</p> |
| 委員 | <p>それで先般、我々市民意見交換会のために大分大学駅前でPR活動をしました。が極端ですね。ちょうど通学の8時半くらいまでが最後で、あとはもう1人、2人しか降りてこない。大分から来る客のほうが多い。竹田から来る便はほとんど10分の1以下ですね。その時間帯を越したら極端に10分の1です。普段の乗降客は大分大学駅で乗り降りしないですからね。そういった極端な例があります。</p> |
| P T | <p>先ほどお話があったとおりで、使い方がわからない人が最近結構多いことはこちらのほうも認識してはいて、以前は公共交通の利便性が悪いから乗らないという意識が強かったですが、よくよく色々調べると、使い方がわからないと、不安になって乗らない方が結構いらっしゃるということで、最近バス会社とは一緒になって大きな団地などで、高齢者を対象にしたバスの教室を開いたりもしています。今お話を伺って、若い人もそういった方が多いということなので、そういったことも今後検討が必要と思いました。</p> |
| 部会長 | <p>そのあたり、外国人向けは今どうなっていますか。外国の方は留学生も随分と別府に多いですが、大分市もかなり多いかと思います。多分外国人の方がバスに乗ることはすごいハードルだと思います。JR以上に多分難しいと。</p> |
| P T | <p>そうですね。どこに行くかわからないというのが一番多いです。外国人の方は特にそうだと思います。今は外国人に対応できることまで検討はできていませんし、それも今後の検討事項だと思います。</p> |
| 部会長 | <p>特にワールドカップ、あそこに向けてそういう方々もまた来られますので。</p> |
| 事務局 | <p>そうですね。総合計画を策定する上では、そういった観光面の担当部会にもこの話を報告しながら、そういったものが意識できるような記載が何かできないか、投げかけをしてみます。</p> |
| 委員 | <p>バスに乗ったとき、今都会の音声ガイドで「バスが来ます」とか、時刻表はありますが、夕方は特に行ったのかまだ来ないのかわからないですね。時間的にも経ってと思ってもまだ来ない。10分くらい遅れて来ることがあるので、例えば今のスマートフォンを含めてIT化されて、見ると間もなく来ま</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>すとか、どこへ来ますとかといった音声ガイドをしてくれるとわかりやすいかと思います。</p> <p>J Rを降りて、大分駅を出て大分大学へ行くのにどこに乗っていいかわからないということを前回言いかけましたが、そのあたりをもう少し案内をわかりやすくしてもらえると、県外から来た人が特に学校、医大や分大に行くなどがわかりやすいと思います。そのあたりの表示の仕方というものを検討していただけるとありがたいです。</p> |
| 委員 | <p>今、テレビの総合案内版はどうなっていますか。外国語も含めて。そういうバスの乗り方は全部載っていますか。J Rを出てすぐにある。</p> |
| 事務局 | <p>デジタルサイネージのことですね。確認はしていませんが。</p> |
| 委員 | <p>都町へ行くと言えば出てきて、それで都町に行くと個別の店が見られるといった連携がとれる様にしたほうが良いということを言っていますが、あれは単独ですね。そこはできていないので、その方向がどこまでかですね。一応、情報は全部入れたと聞いています。城址公園や鶴崎方面など、そういった市の情報はもう全部入れています。それを検索する時に、観光者が来て直ぐにどこまでわかるかです。例えば都町に飲みに行く時に、都町の入り口に行けば店が出てくるとか、そういった様にしなないと。単独でしているといった情報は入っていますが。その検索の仕方ですね。やはり観光面も、今いう言語も言葉も。</p> |
| 事務局 | <p>そうですね。デジタルサイネージの件は、確認をして次回の冒頭にでもご報告いたします。</p> |
| 委員 | <p>それと交通体系との連携ですね。今言った、わからない時に直ぐにどこに乗れば良いかなどがわかるように。</p> |
| 事務局 | <p>確かにお店の検索などができると。</p> |
| 委員 | <p>それはできないと思います。だから、今言った交通体系で、どこへ行くといったことがわかる、バス停をどこで乗っていいかということがわかるかどうかです。そういったことをしているかどうかですが。</p> |
| P T | <p>北口の表示だけはしています。</p> |
| 委員 | <p>北口だけですか。</p> |
| P T | <p>はい。</p> |
| 委員 | <p>あとトキハ前で、それぞれの方向のものは出ますか。</p> |
| P T | <p>中央通りまでですね。</p> |

| | |
|--------|--|
| 委員 | 中央通りまでは出ているんですね。 例えば、植田へ行くのにトキハ前で何番線に乗るといことも出ますか。 |
| P T | はい。行き先表示で7番乗り場はどこ行きと、細かく出ています。 |
| 委員 | 出ているんですね、そこは。 |
| 委員 | それで、福岡などは何々系、50番系でどこ行きと。 |
| 委員 | 方向が決まっていますね。 我々もバスに乗れないです。電車しか乗れない。バスはどれに乗っていいかわかりません。ワンコインバスは使えるようになりましたが。 |
| 事務局 | 今、委員さんのご意見で、バスの到着の「バスロケ」といまして、スマートフォンのアプリがあります。それでわかるようにはなっていますが、皆さん慣れ具合があるかもしれませんけれども。 |
| 委員 | まだ1社だけでしたかね。もう2社ともできましたかね。 |
| P T | 大分バスだけです。 |
| 委員 | バスが来たときに停留所に、例えば「バスが来ます」など、声で出してもらえると。 |
| P T | そうですね。他の都市だとそういった遅れの時間やバス停に表示されるなどがありますが、大分市はまだそこまでいっていません。 |
| 副部長 | 福岡の西鉄さんは、今三つ前のバス停にいますという形で出ますよ。 |
| 委員 | 先ほど言ったレンタサイクルで、東京都の中でビジネス中に貸すものが、何区か覚えていませんが行っていました。ビジネスの人が自動車で動かずに自転車で行く。今、日出町のホテルなどはそうですが、観光協会が電動自転車を置いてくれませんか。レンタルはしてくれましたが、電動でないと動けないと。そのあたりは観光協会が行っているんですけど。 |
| 事務局 | 大分のレンタサイクルにも電動が12台あり、今置いているそうです。確かに上り坂や遠方といったところは有ると便利ですね。 |
| オブザーバー | 今、レンタサイクルのアンケート、統計を見ると、普通の自転車は高校生、大学生や一般の方も利用されていますが、電動自転車はどちらかというと、足腰に自信の無いかた向けに設定をしようと思ひ、単価が少し高いですが固定客もいます。市内の中で、今のところ大分の利用形態がどうしても拠点から回遊してまた拠点に戻るといった使われ方の様で、目的地に行って、そこから今度 |

| | |
|-----|--|
| | <p>は乗りかえてといったことは中々まだ浸透していない感じですので、そういったものは難しいかと。</p> |
| 事務局 | <p>そういった取組も今後拡充、充実を進めていき、将来どういうふうに観光政策と連携していくのかというところは非常に重要ではないかと考えています。</p> |
| 部会長 | <p>今おっしゃった自転車の話は事前の資料にある走行空間の話ですよ。先ほどの環境づくりの中で駐輪場の話がメインで出されていましたが、その自転車の走行空間をどうしていくかということは、基本計画は有ると思いますが、そのあたりは取組から明示的にする必要というのは無いのでしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>今、自転車走行空間ネットワークという計画をつくってしまして、それで市内の主要路線の中で、自転車レーンの着色や路面に表示をして車道の左側を通ってくださいますというような案内はしているところです。総合計画にまでは組み込んではいませんが、そういった下位になる計画にはありますので、自転車政策、交通安全対策のところでは走行空間のことは触れております。</p> |
| 委員 | <p>これはレーンをつくる以前にマナーが全然なっていない。左側通行していませんから。危ないです。しっかりとそういったルールづくりから敷かないと、今のままでは駄目です。</p> |
| 事務局 | <p>学校を回って啓発等を行っています。だから、そういったソフト対策が重要と考えています。</p> |
| 委員 | <p>学生はいいけれども、それ以外のかたで横へ突っ切る、反対側から来るなどね。</p> |
| 事務局 | <p>啓発活動等のソフト対策と同時に、ハード施策である、空間の整備を合わせて行っていないと、どちらかだけでは中々安全対策という面では成り立っていないと思います。</p> |
| 委員 | <p>車も年齢制限があるので自転車もね。真ん中を走っていたら渋滞します。こういったマナーについては、なるべく交通ルールを徹底してほしいです。</p> |
| 事務局 | <p>そうですね。以前に比べるとかなりそういった自転車のマナーアップの面では広報されていると感じていますが、中々浸透するにはまだまだなのかなと。</p> |
| 委員 | <p>1つ質問ですが、パークアンドライドは国分寺のところでしたか、その利用率はどれくらいありますか。</p> |
| 事務局 | <p>国分駅の利用者ですか。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | いえ、国分駅ではパークアンドライドを行っていません。 |
| 事務局 | いえ、まだ市としては整備していません。 |
| 委員 | 試行的でしたよね。 |
| P T | 平成14年頃、1度実験で行っていますが、それ以来はありません。今は民間が駐車場の整備をしていますので、そこを使ってパークアンドライドをしている方はいらっしゃると思います。市として今何か行っているわけではなく、検討はしています。する可能性について検討しているところです。 |
| 委員 | 実際、駅の近くの駐車場はかなり利用してもらっています。 |
| 委員 | 大分に来るときに高城駅で自分の車を置いて電車に乗りました。 |
| 委員 | ああいった地域の駅を整備して駐輪や駐車をできる人は結構増えますね。 |
| 委員 | はい。実は大分は結構駐車料金が安いので、1日とめて300円などです。そんな感じで使ってもらっていますので、結構いっぱいになっている様です。 |
| 委員 | 1回、出張へ行く時に南大分駅から乗って大分駅から行こうと思っていたところ、南大分駅に行くのに渋滞して、結局大分駅の南口まで出てきました。 |
| 委員 | 大分駅は特急を利用していただく方はもっと割引をしてもらっているので、結構使っています。 |
| 事務局 | そうですね。キスアンドライドというものもありますけど、そういった郊外の駅まで来て、そこから公共交通に乗っていただくということで、公共交通の利用促進にもつながりますし、中心市街の渋滞の緩和などにもつながるので、取組としてはありますが、市としては中々進め切れていません。確かに郊外もJRさんがお持ちの駐車場は結構ありますよね。 |
| 委員 | それはぜひ一緒にやらせていただけるとありがたいと思います。 |
| 委員 | 道路を幾ら整備しても、やはり移動が良くなったところに集中するので、同じことの繰り返しになりますね。 |
| 事務局 | そういった意味で色々なハード・ソフト整備を絡めることによって、ネットワークとして成立させる事を、この節ではお示ししておりますので、そこを意識しながら素案の中に組み込んでいきたいと。 |
| 委員 | 道路整備と合わせて拠点整備を。 |

| | |
|--------|---|
| 事務局 | <p>地区拠点の考え方ですね。地区拠点という考え方とJRさんの鉄道駅を、交通結節という意味ではJRさんの駅が拠点になるかと思っておりますので、そういった地区の拠点の整備と、交通の拠点の整備を両面で考えていけば、コンパクトなまちとネットワークがつながっていくのではないかと思います。そのあたりは先ほどの市街地の形成の節でも記載をしていますので、その両面を両輪と捉えてこの案の中に組み込めていければと考えます。</p> |
| 副部長 | <p>あと1点、目標設定のところで、26年度末と31年度で公共交通の年間の利用回数、人口当たりと書いていますが、増える方向なので非常に前向きだと思いますけれど、JRさんの駅ビルができたのが今年度で、既にJRさんは何割か伸びている話があって、鉄道とバスの利用数を見ると、四十何対五十幾つくらいの比率で、JRさんは2桁台で伸びていらっしやると、もう今年度で達成されている数字かなというイメージもありますが、いかがですか。</p> |
| PT | <p>この※印を付けているものは推計値で、実際の数字はまだ25年度の数値しかわかっていません。26年度の数字がまだ把握できていませんので、それによつてはこの数字をあたる必要が有ると考えています。</p> <p>実際目標としては、多分JRさんは今後も伸びていくだろうと。ただ、バスはずっと下がっていますので、これを何とか維持していきたいということが目標で、その計算に基づき31年度の数値を出していますが、JRさんがもっと上がるのであれば、もう少しこの目標を上げないといけないとは思っています。</p> |
| 副部長 | <p>ちなみに京都市はここ5年くらい伸ばされていて、バスも関連するJRのあたりも非常に増えていると思っておりますが、そんなイメージに少しでもなるといいなと思っていました。</p> |
| PT | <p>今バスでちょうど1,000万を少し超えたくらいで、このままいくと、1,000万を下回ってしまいます。何とか1,000万を維持できるような形にはしていきたいという目標としてはあります。</p> |
| 部長 | <p>目標設定のところで自転車のほうが1.3倍くらい伸びていますが、何か計画があるんですか。自転車のところで1,000台増やすなど。3割増しですよ。</p> |
| オブザーバー | <p>そうですね。31年度の見込みで4,650台に設定していますが、これは一応将来推計を見据えていまして、市内全域の駐輪場を含んでいます。郊外、駅の充実、大在などを全部合わせており、郊外のほうはもちろんそこまでは増えないですが、やはり中心部はJRの駅ビルがオープンしたことや、駅南の区画整理の完成など、色々な賑わいの数値である商業延べ床面積等が増えまして、それに伴って来街者も増えるのではないかという想定ができますので、それにより中心部のほうは上がるといった推計を出しています。</p> |
| 部長 | <p>この目標設定は「中心市街地」と限定していますが、周辺部を含めたという</p> |

| | |
|--------|---|
| | 説明でしたけれども、数字自体は市街地ですか。 |
| オブザーバー | 中心市街地ですね。すいません。中心部だけです。 |
| 事務局 | 今でもかなり駅付近の駐輪場が満杯な状態で、利用率、駐車台数に比べても1.3倍の利用があるなど、かなり利用状況は高いです。そういったところもあり、それを解消するための整備目標と、中心部については放置自転車区域の設定もしていますので、それを締め出した分の受け皿という面も含めて、整備の目標を立てています。 |
| 委員 | それはポケット駐輪場というか、小さい駐輪場をどれくらい、何台くらい廃止しましたか。第一生命ビルの前の駐輪場など、二、三十台のものが角々に少しありましたよね。 |
| オブザーバー | 駅の南北の広場が完成するとともに、高架下へ集約いたしました。絶対量はほぼ変わっていません。 |
| 部会長 | 先ほど書き順の話が出ましたが、目標設定のところは書き順が逆なような気がしますので、前半の説明からすると、そこはご検討いただきたいと思います。 |
| 事務局 | そうですね。ありがとうございます。 |
| 部会長 | はい、その他よろしいですか。 |
| 副部会長 | あと1点だけいいですか。これは総論的な大きな流れなので、あまり細かいことを言うつもりではないですが、次の章が地域情報化、ICTの活用などで、中身を見ると、広く市民がパソコンやネットワークといったWIFI的な話が書いてあります。この交通の利便性強化も先ほどのカードの話を含めて、ハードユーザーだと多分ポイントがたまるとは思います。交通にもICTのキーワードを入れるといった、そういったところの検討だけで、別にできなくてもいいですけども、次の章だけではなく一番活用できそうな分野の一つかと思えますので、ご検討をいただければと思います。 |
| 事務局 | 貴重なご意見をありがとうございます。おっしゃるとおりだと思いますので、検討させていただきます。 |
| 部会長 | はい、それではこの節は1時間程度時間を使いましたので。 |
| 事務局 | 部会長。事前にいただいた意見をご紹介させていただきたいと思います。 |
| 部会長 | はい、ではお願いします。 |
| 事務局 | 動向と課題、基本方針については、特にご意見はいただいておりません。 |

主な取組で、「公共交通ネットワークの構築」では、全てのバスが大分駅の北口にとまると良いなど、まだ一部高速バスなど、乗り入れていない路線バス等もありますので、全てが大分駅の北口に集約されると良いというご意見をいただいています。

それと、将来的には他都市のようにバスターミナル、福岡のバスセンターまで規模が大きいものではないのかもしれませんが、そういったターミナルの建設も必要ではということをおっしゃっています。

その次は、今回もご意見をいただきましたが、やはり駅を出てからバス停までの案内を明示するべきではないか、明確にすべきではないかというご意見をいただいております。

次が、「公共交通の利便性の向上と利用促進」ですけれども、ここはかなり深刻な問題ということでお話がありました。運転手が不足しており、大分に限ったことではないのかもしれませんが、このままいくと、10年後に今のようダイヤを組めないのではないかという懸念、危惧をいたしておるということでした。

次に、「交通渋滞の解消と緩和」ですけれども、先ほどお話しが出ましたパークアンドライドです。総合計画のほうに記載はありますが、中々その事業として進めていけないと。取組だとは思いますが、パークアンドライドという事業よりも考え方の広報が進んでいないのではないかとおっしゃいました。

その次が、自治体職員が率先して、通勤手段を公共交通へ転換を進めていくべきではないかと。たしか水曜日はノー残業デーで、そういったときに積極的にノーマイカーデーにして、公共交通への転換を図るべきではないかとおっしゃいました。

次の、「自転車利用の促進」では、先ほどもお話しが出ましたとおり、走行空間が整っていないということでご意見がありました。それが整わないことには駐輪場を整備しても意味が無いのではなからうかというご意見をいただいております。

それと、主な取組の中ではありませんが、その他のご意見として、大分駅の周辺にトイレが無いと。公共トイレということだと思いますが、特に早朝、深夜の便に対応するトイレが今無いので、そういった部分に対応できるトイレを設置すべきではないかとご意見をいただいております。

それと、最後に目標設定については、先ほど少し説明をしましたが、人口1人当たりの利用、年間公共交通の利用回数の根拠ということでありましたので、その根拠はお話させていただきました。そして、努力目標というところではありますが、これを目標にすることによって、公共交通の維持ができるのではないかとおっしゃるところで指標の設定をさせていただきます。

駆け足ですが、事前にいただきましたご意見でございます。今日、皆様方からも同様の意見をいただいて、かなりの部分で議論はできたのではないかとおっしゃっております。

部会長

はい、ではこの節はここまでとさせていただきますので、事務局に本件の整理をお願いします。

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>多くのご意見をありがとうございました。</p> <p>意見を簡単にまとめさせていただきますと、やはり今後外国人や出張の方も含めて来街者に対しての対応が必要ではないかというご意見をいただきました。これについては、公共交通の利便性ということでの取組と、観光面での取組ということがあるかと思いますので、他の部会とも勉強しながら進めていければと思います。</p> <p>それと、循環バス、今試験的に運行しています「大分きゃんばす」は成功事例ではないかというありがたいご意見をいただきました。確かにこれに限らず、成功事例を積極的に出すことは良いことだと思いますので、貴重なご意見として今後反映させられるところは取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>それと、道路整備、バスや鉄道、そういったもののネットワークは欠かせないということで、ご意見をいただきました。そのとおりだと考えておりますので、貴重なご意見として総合計画素案の中、若しくは提言の中に反映させていきたいと思っております。</p> <p>次に、バスの利用促進というところでお話をいただきました。バス停までの案内、バスの発着に関する事、そういったところの取組をすることで、公共交通の利用促進にもつながっていくと思しますので、具体的な取組について総合計画の中で積極的に書けるものは書くなり、検討したいと思っております。これも提言の中でいただける、良いご意見をいただいたと思っております。</p> <p>それと、バリアフリーという観点で段差の解消ということだけではなく、利用案内、バス停までの道案内、バスの乗り方等といったバリアフリーという観点が今後必要だとは捉えていきたいと思っております。</p> <p>それと、交通体系の確立という節ではありますが、公共交通という話が主でございましたので、そのあたりの取組と表立った表現との整合をしっかりと図っていきたいと思っております。</p> <p>それと、公共交通という意味では、港湾や空港、フェリーと飛行機ですね。そういったところにも意識をしながら、そこにどう接続していくのか、どうネットワークをつくっていくのか、そのあたりの表現がわかりづらい、若しくは誤っているところもあろうかと思しますので、修正をしていきたいと思っております。簡単ではございますけれども、ご意見の整理とさせていただきます。</p> |
| 部会長 | <p>ありがとうございました。よろしいでしょうか。</p> |
| 各委員 | <p>(はいの声)</p> |
| 部会長 | <p>それでは、次の節に移りたいと思っております。第3節の地域情報化の推進になりますので、事務局から説明をお願いします。</p> |
| P T | <p>素案の102、103ページの「地域情報化の推進」について説明をいたします。地域情報化の推進につきましては、現行計画では主に急速な情報化の進展に伴い発生したプライバシー侵害や、個人情報の不当な利用などの問題について触れておりました。今回の計画は、スマートフォンやタブレット端末の急速な普及、公共データの民間開放、オープンデータの推進や、現在最も重要度・</p> |

関心度の高いマイナンバーについての取組に重点を置いたものとしております。

まず、動向と課題について説明いたします。102ページをご覧ください。要点としては、3点あります。1点目は、ICTを利活用した地方創生についての記載をいたしております。102ページの中段上をご覧ください。1点目、総務省から平成26年度に、地方創生に資する先進的な地域情報化事例を広く募集して「地域情報化大賞」として表彰し、ノウハウ等の情報共有を促しておりますので、大分市においてもさまざまな分野においてICTを利活用して、地方創生へとつなげていく必要があると考えております。

2点目が、同じく102ページの中段、「また市の内部を最適化し」という部分になりますが、情報システムの最適化についてです。

大分市は今年、平成27年6月に情報システム最適化計画を策定したところでありますが、今後数年間かけて市内部のシステムを最適化し、一層の業務効率化を進めていくということとしております。

3点目、マイナンバーについてです。102ページの中段下をご覧ください。住民票を有する全ての人に対して1人1番号のマイナンバーが指定され、この制度が開始されることにより、社会保障・税に係る行政手続における添付書類の削減や、マイナポータルのお知らせサービス等による国民の利便性の向上に加え、行政を効率化して人員や財源を国民サービスに振り向けられること、所得のより正確な捕捉により、きめ細やかな新しい社会保障制度が設計できる等の利点があると考えております。

次に、基本計画についてご説明いたします。同じページの一番下をご覧ください。先ほど説明しました、動向と課題を踏まえ、今後の国・県や他の自治体との連携を意識した内容として変更をしております。ICTを活用し、安全で快適な市民生活を実現すること、活力ある地域経済・産業の育成を図ること、情報セキュリティに対してより一層の充実を図ることを基本方針としております。

続きまして、次のページをご覧ください。主な取組についてご説明させていただきます。まず1点目、安心して健やかに暮らせる市民生活の実現の取組についてですけれども、防災メールの利用促進や環境情報の提供により、安心して健やかに暮らせる地域社会づくりに取り組みます。また、保険・福祉・医療分野に関するシステムのデータ化や、データの電子化を進め、健康増進の支援を行います。

2点目、にぎわいと活力あふれる豊かな地域社会の実現の取組については、地域経済の活性化のために企業の情報化や新たな起業の支援等に取り組みます。また、世界最先端IT国家創造宣言においても、公共データの民間開放、オープンデータの推進が盛り込まれていることから、行政が保有するデータをオープン化し、民間が活用できることにすることで地域経済の活性化を促したいとしております。

3点目、ICTを快適に利用できる情報活用能力の向上と環境整備の取組についてですけれども、市民が等しく安心・安全にICTを活用できるよう、ICT講習や情報モラルに重点を置いた情報教育を実施します。また、国や県、他の自治体と協力しながら公衆無線LANの整備・充実を図ることにより、観

| | |
|-----|---|
| | <p>光客や市民がいつでもどこでもICTを活用できる環境づくりに取り組みます。</p> <p>4点目、行政サービスの向上です。今後も多様な情報提供ツールを活用するとともに、市民の視点に立った利便性の高い行政サービスを実現するために、窓口サービスの向上や行政手続のオンライン化など、ICTを活用した取組を進めていきます。</p> <p>5点目、行政事務の効率化についてです。こちらは行政事務のさらなる効率化や経費削減のため、本年6月に策定した情報システム最適化計画にのっとり、システムの最適化に取り組みます。また、市民が安心して行政サービスを受けることができるよう、個人情報の保護や情報セキュリティのより一層の強化を図ります。</p> <p>次に、目標設定について説明いたします。次のページをご覧ください。指標として、素案では2点上げさせていただいておりました。1点目、ICT講習会の受講者数ですけれども、表記がIT講習会となっております。正しくはICT講習会とさせていただきます。ICT講習会の受講者数としましては、平成26年度の実績で4万4,563人となっております。こちらは平成31年度までに65,000人に達することを目標としております。</p> <p>その下、2点目の目標設定の、公衆無線LANスポット数（累積）という部分ですけれども、こちらの指標の提示を当初予定していましたが、今年度設置予定のスポット数以上の設置計画等が現時点でございませんので、今回指標としての提示を見送らせていただきたいと思いますと考えております。</p> <p>以上が、地域情報化の推進の説明でございます。</p> |
| 部会長 | <p>ありがとうございました。それでは、委員の皆様、質問のやりとりをお願いいたします。</p> |
| 委員 | <p>いいですか。都市基盤の形成の中で、この情報化推進とどう絡み合っていくのかよく理解できないですが。部署が違うのか、基本的に何がポイントかわかりません。</p> |
| 事務局 | <p>そうですね。今の現行計画で元々都市基盤の整備の部会は、快適な生活を支えるまちづくりというところでの表記をしていて、節が色々移動はしていますが、先ほど言った交通体系は、そういった実際のハード面も含めた交通体系でのネットワークの基盤をつくり、今の地域情報化はソフト的なところになります。そういった情報網というネットワークでの基盤で捉えて、都市基盤の整備の部会に入っているところです。</p> |
| 委員 | <p>これはほかの部会にも入っていませんか。情報化はここだけですか。</p> |
| P T | <p>情報化はここだけです。</p> |
| 委員 | <p>何か違う様に見えますが。</p> |

| | |
|--------|---|
| 事務局 | 今の説明の中にもありましたが、SNSの普及でかなりそういった観光や情報サイトというか。 |
| 委員 | 昔は光ファイバーを通すとか、そういう意味ではわかるけれども、そういうものもでき上がってしまいましたよね。 |
| 事務局 | そうですね。かなり都市基盤というところから離れつつあるとは思いますが、ハード面のネットワークとソフト面のネットワークといった、そのまちの基盤をつくるという意味で、今ここに触れておるところでございます。これからまたSNSなど、インターネットの環境が進むにつれ、観光面などにも主眼がいくようになれば、本来書くべきところが変わってくるのではないかと思います。 |
| 委員 | 主な取組の中の一番上の保健・医療・福祉分野に関するシステム化データの電子化を進めるとありますが、今病院は入院していても入っていませんという具合に、全く情報提供していないですけれども、現実この個人的な部分というのは、電子化データが収集して電子化等ができますか。ここの文章が、システム化やデータ化の電子化を進めるということですが、これは個人情報ですよ。そうしたときに、それを管理して健康増進の支援を行いますということですけど、病院側がそのデータを提供してくれればいいですが、今は入院している人を尋ねてお見舞いに行っても、そういう人は入院していませんと断られます。全く言いません。現実には情報がもらえるのかなと。 |
| 事務局 | そうですね。個人的な情報を外に出すことは難しいかと思いますが、健康増進の支援を行うといった記述が続いておりますので、そういう個人の情報を個人の方に情報を蓄積して統計的なデータを取り、それを個人の方で使うなど、そういった面が保健や福祉、医療のほうにも使えればということだと思います。これから在宅介護などにもこういったシステムが使われてくるのではないかと思います。 |
| オブザーバー | 今医療分野ということで、母子保健や健康管理というようなシステムが既にあります。子供の予防接種の状況などは既にデータ化して取り込んでいます。そういった内容で未受診者に対して、受診勧告を行うなどの取組を既に行っていますので、医療機関ごとの電子化を即情報収集するというわけではなく、大分市が実施した予防接種や健診の情報を取り込んでいます。 |
| 委員 | そういったものでしたら。個人的なものかと思ひまして。 |
| 委員 | なぜ都市基盤の形成のところ、そういったデータを整備するというだけのことで、内容については都市基盤計画ではないのですから。 |
| 事務局 | そうですね。都市基盤だと、ハード面に目が行ってしまうと思いますが、公衆無線LANの環境整備などの通信環境というところの、市街地の形成といった意味ではなかるうかと思ひます。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | データのにはわかります。健康増進の支援など、その区域に入れば部署は違うのではないかなという気がします。 |
| 事務局 | 確かに、医療・福祉のところですね。 |
| 委員 | そこらあたりも、いま一步議論が深まらない。 |
| 部会長 | 確認ですけれども、先ほど目標設定のところでもICTの受講者数は今数字も述べてもらいましたが、公衆無線LANの部分は削ると言われましたが。 |
| 事務局 | 今この段階で大変申し訳ありませんが、確かに観光客等を目線に置くと、この公衆無線LANスポットが必要なところだと思います。中々市も具体的な整備方針というところまで至っていないものですから、どこまでその数字を今後5年毎というよりも毎年毎年整備していく中で出せるかというところが煮詰まっていますので、見送るということも含めて検討しているところです。できれば前向きに進めていきたいとは考えています。 |
| 部会長 | 先ほど言われたように、まさにこの部分が落ちてしまうと、完全に都市基盤にある意味は何なのかという話になってしまうので、公衆無線LANがあれば、観光客等に対するインフラ整備という部分でというものも残りますし、この目標設定項目になるかどうかは別にして、せっかく都市基盤の中に残るのであれば、そういうハード面での何かというところをセットで、ハードとソフトの両方があるというのであれば、十分意義はあると思います。 |
| 委員 | この文章も地域社会づくりに取り組みますではなく、取り組めるように情報提供をできるようにするなど、健康増進の支援を行いますではなく、そういったことを行うための情報提供ができるというような、そういった文言にしないとおかしいです。地域経済の活性化を促しますではなく、形成ができるような情報提供を行うシステムにしますなど、そういった文言にしないとおかしいと思います。 |
| 事務局 | ありがとうございます。修正する方向で検討します。 |
| 委員 | 今のお話から戻って、最初の動向と課題の一番下も、「不当な利用、改ざん、情報漏えいなどの問題が懸念される中、マイナンバー制度が導入され」ではなく、マイナンバー制度が導入されることもあり、こういったことを防止していくように取り組んでいきますということだと思います。 |
| 事務局 | おっしゃられるとおりです。主眼が地域情報化の推進でございますので、そういったくだりの文章になるように、全体的にそういった意識を持って、文章の構成をしていきたいと思います。 |
| 委員 | 言葉が非常に逆にバリアがあるのではないかと思います、「デジタルデバイ |

| | |
|--------|---|
| | <p>ド」は前回も載っていますけれども、一般的に聞いて意味がわからないですね。「ウェブアクセシビリティ」など、おそらく中々理解しづらいですね。聞けばわかるでしょうけれども、日本語で書いたほうがいいような気がしました。</p> |
| P T | <p>用語解説ではなく、日本語で平易なもので。</p> |
| 委員 | <p>そのほうが皆さんにわかりやすいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>そこは我々の中でもそういった意見がかなりありましたので、市民目線に立ったわかりやすい表現に変えられるように検討をしたいと思います。</p> |
| 副部会長 | <p>そういう中で大変恐縮ですが、僕もICTの専門家を育てているので、若干専門用語で言って申し訳ないですけれども、今は多分そういう意味ではビッグデータというキーワードや、IoTといったキーワードの中で、この事務の効率化ではなく、例えば市民の行動の動きを大量のデータから読み取り、そこから一步先の政策に結び付けるなど、市民のニーズを日頃の動きからデータ分析して、つかんだ上で政策を立案することを今民間は行って、そういう講座が沢山できています。これも期間がある程度あるので、まさに視野に入った技術だと思います。</p> <p>それと、IoTというものも単なるパソコンやネットワークではなく、普段皆さんが使っている物との連携の様なところで、これは生活にかかわってくるころなので、そのあたりは多分ご専門なのでよくご存じだと思いますけれども、そのあたりも踏まえてこうなったと思いますし、ご意見いただければと思います。</p> |
| オブザーバー | <p>今ご指摘のとおり、ビッグデータは基本的に情報政策課においても最優先で検討する事項として、具体的には取り組んでおります。</p> <p>ただ、この総合計画の位置付けとする場合に、取り組みやすいものとして、公共データをまずオープンデータ化しようといったことが優先順位が先ではないのかという議論がございまして、そういった中でオープンデータのほうを今回はさせていただいております。</p> |
| 副部会長 | <p>わかりました。横文字を増やすことも良くないと思うので、せっかくコストをかけて整備されるのが前提でしょうから、少しそういった市民のニーズなどを前向きなところに使っていくような雰囲気一言あってもいいかなと思います。効率化だけではなく、それがどこかに入っているとありがたいなと思います。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございます。ご意見として承らせていただきたいと思います。</p> |
| 部会長 | <p>今の話で、総合計画の文言云々ではないと思いますけれども、今市の内部でビッグデータを色々な添付資料等で活用していくときの部局、いわゆる分析などになってきますと、情報政策課の中でされるのか、その担当部局のほうでさ</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>れるのか、そのあたりの仕組みは今どうなっていますか。</p> |
| オブザーバー | <p>その部分に関しましては、方法も含めてまだ調査研究している段階で、具体的にどの部署のどのデータをどこが集約してどういう手法で分析するかといったことまでは至っていないのが現状です。</p> |
| 部会長 | <p>実は、そういう分析ができる方を市の内部に人材育成していくことは、これからビッグデータの中ではすごく大事だろうと思います。だから、ここに盛り込むような話ではないと思いますが、ぜひそういうところも積極的にしていただけるといいのかなと思います。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございます。</p> |
| 副部会長 | <p>それと、公衆無線LANのところもそういった流れは結構できていて、市を越えて共通化した公衆無線LANが望ましいということがある中で、元々各自治体や民間で整備されており、既存のものがあるという話や携帯のネットワークも幾つかあります。どちらの会社というような事情もあるので非常に難しいとは思いますが、おそらく広域で利用者は不便なく使え、パスワード等も共通化されているなど、いちいち市の境界を越えると新たにもう一回設定しないといけないといったことが無いことが多分理想形で、だんだん今走っているとは思いますが。そのあたりは実際ご専門でご議論されていて、今の状況を教えていただければと思います。</p> |
| オブザーバー | <p>大分市が実施している公衆無線LANに関しましては、今年度の3月末までに別府市、由布市と共同で調達、整備作業を行う準備に入っておりますので、今おっしゃられたように、市民の方、観光客の方が例えば別府市で初めて公衆無線LANを使って、ユーザーの自己のデータ等を登録した時に、由布市や湯布院、大分などに移動してきても、そのままもう一度登録せずに使えるような仕組みを構築するようにしています。</p> <p>今回のこの仕組みに関しましては、大分県のほうとも事前に協議を進めながら事業を実施していく予定にしています。将来的には大分県が整備促進をする民間施設や県が保有する大規模な施設に関しましても同様の利用手順で、できるだけ簡便で、なおかつセキュリティー対策は当然必要にはなりますけれども、そのあたりのバランスもとりながら便利に使えるような方向で、具体的に事業を進めるほうに話が進んでおります。</p> |
| 委員 | <p>今の話は良い話なので、逆に早くそれをそのままではなく、そういったニュアンスで書いていただけると良いのではないかと思います。</p> |
| 副部会長 | <p>正直県も、こうやって福岡でも同じ、東京でも同じということが、数年先の理想形だとは思いますが、多分そういう中でのステップとは思いますが。</p> |
| 部会長 | <p>あと防災関係で、防災メールの話が出てきていますが、市内の中で、いわゆ</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>る通信環境が良くない地域は、大分市で防災無線などが整備されていたりしますか。</p> |
| 事務局 | <p>そうですね。防災無線は確か今佐賀関のほうでは整備されています。一尺屋のほうなどは整備されており、地区の公民館の敷地等にスピーカーを立てて設置しています。これからまだ整備を進めていく予定でもあると思います。</p> |
| 部会長 | <p>それはまた別の章ですか。</p> |
| 事務局 | <p>防災のところなので、入っていると思います。</p> |
| 部会長 | <p>別の部会がありましたので、そちらのほうですね。わかりました。その他よろしいですか。中々この部会で扱うのは大変だと思いますけれども。</p> |
| 委員 | <p>技能を深めるなどそういった話になるので、このあたりで良いのではないですか。</p> |
| 部会長 | <p>はい、わかりました。ありがとうございます。 それでは、この3節については以上としまして、取りまとめのほうをよろしくお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>取りまとめをさせていただきます。最初に都市基盤についてというところであり、確かに公衆無線LANが大きなポイントだと思います。そのあたりをこの時期で申し訳ありませんが、よく検討していきたいと思います。 それとビッグデータについては、これからの取り組みになろうかと思いますが、有効に活用していきたいと考えております。 次に全般的に地域情報化の推進という節であるにもかかわらず、表現のくどりがそちら向きではない部分もありますので、全体的に文言等の整理はしていきたいと思います。</p> |
| 部会長 | <p>はい、ありがとうございました。それでは、次の節に移りたいと思います。最後の節になります。第2章3節、安全で快適な住宅の整備です。</p> |
| P T | <p>それでは、素案110ページから112ページの第2章第3節、「安全で快適な住宅の整備」についてご説明いたします。それでは、動向と課題に入る前に、この節の基本的な考えについて、ご説明いたします。住宅は、人生の大半を過ごす欠くことのできない生活の基盤であり、家族と暮らし、人を育て、安らぐことのできるかけがえのない空間であり、社会生活や地域のコミュニティー活動を支える拠点でもあります。また、都市やまち並みの重要な構成要素でもあり、安全、福祉、文化などといった地域の生活環境に大きな影響を及ぼすということを念頭に置いております。 それでは、動向と課題についてご説明いたします。素案の110ページの上段をご覧ください。住宅は人々が健康で快適な生活を送る上で最も基本的な条</p> |

件の一つであり、近年は地震等の災害により安心・安全に対する市民意識も高まっています。また、生活様式の多様化を反映し、住宅に関するニーズも、より質的な充実を求める傾向にあります。

本市における住宅をめぐる具体的な問題としましては、火災等の際に延焼が危惧される密集住宅市街地の存在や、耐震性に問題が有る老朽住宅の存在、また、今後の人口減少・少子高齢化の進行による空き家の増加に伴う居住環境の悪化などが上げられます。このため、良好で災害に強い住宅市街地の計画的な形成を促す他、空き家の利活用などの住宅ストックを活用した居住環境の質を向上させる整備・誘導を進め、活気のある健全な地域社会の形成を目指す必要があります。

また、高齢化対応住宅の普及や公営住宅等の改善を進め、高齢者や障害のある人、低所得者などが安心して生活できる環境を整えていく必要があります。

続きまして、基本方針についてですが、動向と課題を踏まえ、市民一人一人が豊かさを実感できる安全で快適な住み良い居住環境の創出を図ることとし、また、様々な人たちが安心して生活できる住まいづくりを進めるとともに、公営住宅等においては多様なニーズに対応した良質な居住空間の形成を図るなど、各地域の特性に応じた住宅施策を計画的に推進することとしております。

続きまして、基本方針に基づいた主な取組について、要点のみ説明させていただきます。

まず、1点目の安全で快適な居住環境の整備につきましては、111ページの一番上の部分をご覧ください。

高齢者や障害のある人等が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、段差の解消や手摺の設置などの住宅のバリアフリー化に対する支援を行い、良好な住宅の確保に努めることとしております。

次に、上から五つ目の部分ですが、地震発生時の建物などの倒壊等による人的、物的被害を未然に防止するため、旧耐震基準の既存住宅の耐震化や、危険なブロック塀等の除却を促進することとしております。

その四つ下の部分についてですが、空き家等については、県外からの移住者などの住み替え支援として活用することとしております。その他、地域の公民館として利活用を図るなど、地域活性化の取組を支援し、地域コミュニティーの維持及び再生を目指すこととしております。なお、住み替え支援として、空き家情報バンクや移住者への補助金による支援などに取り組んでおります。

最後の部分では、防犯や衛生面等からも良好な居住環境を阻害する老朽危険空き家の除却の促進を図ることとしております。

続いて、2点目の公営住宅等の計画的な整備についてですが、一つ目の部分では、居住の安定を確保する公営住宅等については、今後の人口動向や民間住宅を含めた住宅ストックの総量を考え、適正な規模での計画的な整備を図ることとしております。

二つ目の部分では、安全で快適な住まいを長期にわたって確保するため、公営住宅等の長寿命化を図り、予防保全型の維持管理を行うなど、ライフサイクルコストの縮減につなげることとしております。

最後に目標設定についてです。112ページをご覧ください。ここでは住宅の耐震化率、大分市住み替え情報バンクの登録数、長寿命化事業をすべき公営

| | |
|-----|---|
| | <p>住宅等の計画的整備の達成率の3点の指標を設定しております。</p> <p>まず、住宅の耐震化率についてご説明いたします。昭和56年5月31日以前の旧耐震基準によって建てられた建築物については、その後の新耐震基準を満足していない可能性が非常に高い状況にあります。住宅の総数に対して、新耐震基準を満足している住宅の現状値は81.7%であり、目標値を92.8%としております。</p> <p>次に、大分市住み替え情報バンクの登録数についてですが、大分市住み替え情報バンクの目的は、市内の空き家等の情報を発信することにより、不動産の流通を促進するとともに、本市への移住希望者を支援し、空き家等の有効活用及び定住促進を図ることとしております。現状値は42件、目標値は200件としております。</p> <p>最後に、長寿命化事業をすべき公営住宅等の計画的整備の達成率についてですが、平成23年度に策定しました「大分市公営住宅等長寿命化計画」に基づきまして、平成23年度を起点とし、平成31年度までに計画的に実施すべき外壁改修工事や屋上防水工事などの長寿命化事業を、実施した住戸数により達成率を算出しております。現状値は40.1%で、平成31年度までに行う予定である事業を確実に実施していくことで、100%の達成率を目標値としております。以上で、ご説明を終わります。</p> |
| 部会長 | <p>ありがとうございました。それでは、委員の皆様よろしく申し上げます。</p> |
| 委員 | <p>中心市街地活性化の方針と市街化調整区域の緩和など、そのあたりは考えていますか。まず、中心市街地ではなく、郊外型にいくのですか。</p> |
| P T | <p>いえ、今、既存である郊外型の住宅においては市街化区域に既に入っているようなところがございますので、そういったところは今後こういった形で郊外住宅を維持していくかというようなことが課題になるかと思われま。</p> <p>市街化調整区域においては、既存住宅や既存集落等で過疎化が進むといった所もございますので、そういったところにつきましては、開発許可の付議基準の緩和等を行う中で、立地等ができるように、住宅等を建てられるようにしているところです。</p> |
| 委員 | <p>改正都市計画法ができて、大型物件は基本的に地区協議などが無い限り、今は難しくなっているでしょう。</p> |
| P T | <p>そうですね。平成18年に都市計画法の改正で市街化調整区域の大型団地の開発等は厳しくなっております。</p> |
| 委員 | <p>それとブロック塀については最大で7万円でしたか。</p> |
| P T | <p>そうですね、はい。</p> |
| 委員 | <p>道路に面した危険なブロックを除去しましょうということで、これからも行</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>っていきますか。財源は問題無いですか。</p> |
| 事務局 | <p>そうですね。今のところを行う予定です。利用していただける方が増えれば。</p> |
| 委員 | <p>それと、大分市の住み替え情報バンクに42件というのは、佐賀関や野津原が多いですか。</p> |
| P T | <p>この現在の42件は今年の6月まで、平成22年から6月までは富士見が丘団地に特定するような形で運用していたものですから、その合計が今のところ累積で42件ということになっております。</p> <p>今後は全市的に住み替え情報バンクの範囲を広げておりますので、佐賀関や野津原なども少しずつではあるかとは思いますが、結果として出てくるのかなと思います。</p> |
| 委員 | <p>都会の人で山や海が見えるロケーションのところを求めている人が今多いです。そういう人にアピールすることによって、大分市に来てもらうなど。過疎化している地域、特に高齢者に今なっていて、我々建設業界も加勢に行って草刈りなどをしていますけれどもね。そういうところに来てくれると活性化というか、変わっていくのかなと思います。</p> |
| 事務局 | <p>全市的に今度拡大をしましたので、登録者数が伸びることによって、そういった形にもつながるとは思いますので、これも積極的な広報が必要ではないかと思えます。</p> |
| 副部会長 | <p>県内の別の街だと思いきり電話をかけて、相続した関東にいる人などに。それだけすると積み上がってくるでしょうけれども、まだ大分市はそこまでは。</p> |
| 事務局 | <p>まだそこまでは。</p> |
| 副部会長 | <p>そうですね。富士見が丘で部分的に今取り組まれていますけれども。</p> |
| オブザーバー | <p>今お話があったように、空き家等実態調査といった、今年度大分市全域で空き家がどれくらいあるかという、件数を調査する委託を出しております。全件の把握ができましたら、空き家等の所有者に対して意向調査をかけていくなどのプランも考えていますので、そういう方がマーケットに出したいというようなご希望があれば、空き家バンクのほうに多く登録していただければと考えております。</p> |
| 副部会長 | <p>あと、他の街の話ですが、例えば広島で山のほうの住宅地が崩れ、先日も川の堤防の決壊などがありました。ここも大分川などの川が何本もあり、山のほうにも住宅が建っており、そういったところは当然私有地なので、どこまで公共が行うかという話ですが、大きなそういった災害があると前面に出られるのは市役所がされますよね。そのあたりはこの政策ではなく、別の場所になり</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>ますか。防災などそちらのほうですかね。</p> |
| 事務局 | <p>そうですね。防災になります。今回この都市基盤の形成から外れましたが、河川は以前この項目の中にありました。その中では防災対策の様なことも少しはありましたが、今基本的には防災部会で協議されています。そこでハザードマップの作成などを行っております。</p> |
| 部会長 | <p>その他いかがでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>耐震化率の話ですけれども、31年度で92.8%ですが、いわゆる100%化するというような計画は少し長期的なのですか。</p> |
| P T | <p>そうですね。将来的には旧耐震基準のものを減らしていくという目的はありますが、戸数自体もかなり数が有りますので、少しずつですけれども、高い数値に近づけていくように目標としては目指しているところです。</p> <p>ちなみに、国の基本方針、住生活基本計画等においては、平成32年までに95%を目指すこととしておまして、そういったものを基準に、大分市でも92.8%という設定をさせていただいております。</p> |
| 委員 | <p>32年で95%ということは、達成しなくてはいけないような数字を持っているんですね。1年間で2%くらいですか。</p> |
| オブザーバー | <p>耐震化率につきましては、基本的に民間の住宅を持たれている方が非常に多いです。耐震化の診断と補助をしていますが、私が担当をしていたときに直接電話をすると、やはりお金の問題で中々耐震化ができないという形の中で、支援をしてもやはり個人の負担額を出さなくてはいけないところが非常に難しいと。ただ、このパーセントが上がっていくことのほとんどが、やはり古い住宅を、先ほどの老朽危険空き家もそうですけれども、壊して建て替える、そういう形でリフォーム、耐震化をするというよりも、新しいものが建つことによって自然にパーセントが上がっていくというところもあります。100%はどうしてもその住宅でそのまま高齢で住みたいという方がおられて、100という目標が非常に難しいです。やはり命を守るという点ではアピールはしていますが、どうしても本人がこのままで良いと言われたときには、中々借金してでもお金を入れるようには言えない部分もあります。</p> |
| 委員 | <p>公営住宅としてはどうですか。</p> |
| オブザーバー | <p>公営住宅は基本的に100%です。</p> |
| 委員 | <p>動向と課題の住宅ストックというところで、「活用方法などを検討し」と111ページにありますが、一体どういうふうに住宅ストックを活用していくのかを教えていただきたいです。</p> |

| | |
|-----|--|
| P T | <p>住宅ストックは既に建っている既存の住宅のことを指しております。今は既に住まれている方もいらっしゃるような住宅においては、住宅に対するニーズによってバリアフリー化の支援や、空き家等については福祉関係や子育て関係など雇用等の関係で、ニーズが発生するようなところが出ましたら、そういった空き家のストックを活用しながら、住み替え支援として利活用することが考えられます。また、富士見が丘団地でいえば、公民館として空き家を利活用するという様なケースもあります。</p> |
| 部会長 | <p>そのほかいかがでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>まず、111ページで外国人の方にもわかりやすいような表現や、ローマ字を入れていきますという箇所があります。少し前に、これは観光がメインだったと思いますが、外国人に来てもらうのに、表示は沢山有るけれども要は統一されていない。端的に言う「大分川リバー」になっているなど、そういうものをかなり改めるというような話をしていました。そのあたりは大分市でどういうふうになっていて、今後どう反映していくかがあるのかを教えてくださいと思います。急に言われても直ぐに出でこないかもしれないですが。</p> |
| 事務局 | <p>即答は難しいですが、確かに今言われるようなことが、全国的にも報じられていたと記憶しております。確か国会議事堂の周りなどに外国人が多く、表記ができていないということがありました。即答はできませんので、確認して次回の冒頭でもお話させていただきたいと思います。</p> |
| 委員 | <p>わかりました。あと、住宅そのものというのは住環境だと思っておりますが、もしかすると防災のほうになるかもしれないですけれども、去年の広島災害にしても、市街地の端ではありますが、山のふもとに建っている家が土砂災害にあっていました。これは昔から変わらない仕組みになっていまして、個人に強制して移転ということは中々できないので、補助を出して移転してもらうなど、色々行ってはいます。大分市でもそういう場所がどれくらいあるのかはわかりませんが、危ない場所からうまく移転して安全な場所に移ってもらうなど、そういった政策がもし有るのであれば、入れておいたほうが良いとは思っています。</p> |
| 事務局 | <p>これも確認が必要ですが、そういう危険な箇所の住み替えの促進のような補助は確か無かったと記憶をしております。そういった促進ではないですが、今、委員さんがおっしゃられたとおり、広島等の災害を受けて、土砂災害のハザードマップの作成が遅れているところは促進するよういわれています。大分は確か遅れているほうでございます。</p> <p>今の県内市の状況を言いますと、危険と言われる箇所である急傾斜地区などが1,958カ所あるとされております。さらにその1.2倍くらいは、警戒区域、いわゆるイエローゾーンやレッドゾーンと言われる危険な区域の指定をこれから4年、5年かけてしていかなければなりませんので、住み替えの促進というよりも、そういった周知、啓発等の活動にこれから取り組んでいくところでございます。</p> |

| | |
|-----|--|
| 委員 | <p>その防災の観点から言うと、中々住み替えや移転は直ぐに進まないであろうということで、逃げてもらうことや、ハザードマップなどの情報提供ということを中心として行っていくと思います。もしこちらはそういうことではなくて、将来にわたって良い住環境をつくっていかうということであれば、あまりハザードマップがメインになってくるのは、少しバランスがおかしいのかなと。要するに、向こうは目先の災害が起きたときに、より皆さんに安全に生活してもらおうという観点で直ぐにできることが前に来ていると思います。こちらは多分当面としてはそういうことですが、より将来にわたって大分市が安全で住みやすいところにするということであれば、ハザードマップなどの話を引っ張ってくるのは少し方向が違うという気がします。バランスを見てもらえばということですが、いずれにしろそういう視点があるのかなと思いました。</p> |
| 事務局 | <p>そうですね。良好な居住環境をとるところの一つに、防災面を考えてはいますので、それが前面に出ない、柔らかいような表現にして、実際の対策は防災面のところでしっかり行ってもらうというような形には表記の確認をしたいと思います。ありがとうございます。</p> |
| 部会長 | <p>その他よろしいですか。 目標設定の最後の「長寿命化の公営住宅の達成率」の後ろに平成23年度から31年度と書いていますが、これはどういった意味ですか。これは要りますか。</p> |
| P T | <p>これは平成23年度から31年度までの間に行う事業の戸数が約3,900戸あり、31年度までにその3,900戸分をしっかりとすることで100%になるというものになりますので、こちらは表記させていただいております。</p> |
| 部会長 | <p>累積という意味ではないんですね。</p> |
| P T | <p>全体のというのは中々出しにくいところがございますので、こういった形で今回目標設定をさせていただいております。</p> |
| 部会長 | <p>わかりました。</p> |
| 事務局 | <p>長寿命化の計画を作っておりまして、その期間ということでもあり、これがあるとわかりづらい、今部会長が言われるような話になりそうですので、表記の仕方は検討したいと思います。ありがとうございます。</p> |
| 部会長 | <p>それでは、ほぼ時間を使い切りましたので、この3節の取りまとめをよろしくお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>取りまとめさせていただきます。他都市では空き家バンクのようなものに対して積極的に取組ができています。大分市は遅れているというか、そこまではできていない状況ですので、こういった空き家バンクのようなところを積極的に</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>行うのであれば、そういった推進の体制等を提言書の中にでも盛り込められればと思います。</p> <p>今後、住宅ストック、空き家等の活用については、大分のみならず全国的に有効活用というところで注目されておりますので、そのあたりについてもしっかり取り組めるような表記にできないか検討していきたいと思います。</p> <p>それと、住居表示については、確認して改めてご報告させていただきたいと思います。</p> <p>それと、住宅ストックの話に戻りますが、活用というところでは個人の引越し先、転居先だけではなく、地元の地域の活性化も踏まえすと、公民館等の活用も考えられますので、そういった取組ができるように検討していきたいと思います。以上です。</p> |
| 部会長 | <p>以上でよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、これで議事の1が終わりましたので、最後にその他のところで、今後の日程等について、事務局からお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>今後の日程についてですが、今日第4回目の部会で各節の協議を終わらせていただきたいと思います。活発なご議論をありがとうございました。このいただいた意見を取りまとめ、素案のほうに反映させる、提言のほうに盛り込むといったところのまとめを、次回第5回目の部会でさせていただきたいと思いません。それに引き続き提言書のほうの作成を進めたいと思いますので、どういったふうに意見を反映させた提言になったのか、その第5回目で皆さん方にお示しをして、ご意見をいただきたいと思っています。それが次回の部会の内容になります。</p> <p>今後の日程については、お手元に第5回目の部会の案内をさせていただきました。11月11日の水曜日、9時半でございます。ここの第2庁舎6階の603会議室でございますので、よろしくお願いいたします。少し時間が空きますので、近くなりましたら出欠のご確認をさせていただきたいと思います。</p> <p>冒頭にお話がありましたとおり、この5回目は11月10日とご案内をしておりましたが11月11日に変更しておりますので、お間違えの無いようよろしくお願いいたします。以上です。</p> |
| 部会長 | <p>第6回は今のところ11月24日で良いですか。</p> |
| 事務局 | <p>はい。11月24日も、この日にこの時間で開催をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、第6回目につきましてはご案内をお送りさせていただきたいと思いません。なるべく多くの委員さんにご出席いただきたいと思っております。ご都合のつかない委員さんもいらっしゃるかもしれませんが、ご理解のほどお願いいたします。</p> |
| 部会長 | <p>それでは他に委員の皆様、よろしいですか。</p> <p>それでは以上で議事を終了しますので、後は事務局にお願いいたします。</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>吉村部会長さん、今日もありがとうございました。</p> <p>本日もお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。また、活発なご意見をいただきまして、今後の総合計画素案の精査に向けて十分にご意見をいただけたかと思えます。先ほども申しましたとおり、今後提言の作成を進めてまいりたいと思えますので、今後ともよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。</p> |
|-----|---|